

令和4年度（2022年度）活動記録（No.22）

非核・平和はみんなの願い

【令和4年4月～令和5年3月】



【ピースウォーク】旧日立航空機株式会社変電所

編集 非核・平和をすすめる西東京市民の会

発行 西東京市

目 次

非核・平和都市宣言	1
西東京市平和推進に関する条例	2
非核・平和をすすめる西東京市民の会申し合わせ	3
非核・平和をすすめる西東京市民の会の組織	4
2022年度の活動を振り返って	5
1年間の活動	8
西東京市平和の日事業	9
広島平和の旅	10
非核・平和パネル展	12
ピースウォーク	13
非核・平和学習会	21
「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争・ アニメ原爆の記」制作 試写会	25
常設展示	26
資料	27

非核・平和都市宣言

私たちは生きている。

おおくの人々が、それぞれの習慣や宗教をもち
様々な考え方と、異なる環境の下で生活している
この地球で

私たちは持っている。

この地球上で、健康で幸せな生活をする権利を
異なる考え方の人々を差別しない義務を

私たちは知っている。

おおくの人々が、今なお戦争で傷つき命を失っていることを
住みなれた平和な生活の場を追われて飢えていることを

私たちは訴える。

必要なのは笑顔での話し合いであることを
必要なのは人類愛と思いやりであることを

私たちは宣言する。

あらゆる人を傷つける地雷や武器をなくすことを
あらゆるものの破滅を招く核兵器をなくすことを
地球上から戦争をなくすことを

私たち市民のこの声と願いを
世界に広く訴えるために
非核・平和都市 西東京市の
宣言とする。

平成14年1月21日
西 東 京 市

○西東京市平和推進に関する条例

平成13年1月21日
条例第2号

(目的)

第1条 この条例は、西東京市（以下「市」という。）における平和行政の基本原則並びに平和事業の推進及び平和の日の制定について定め、もって市民の豊かで平和な生活の維持向上に資することを目的とする。

(基本原則)

第2条 市は、世界の恒久平和を願う市民の精神に基づき、平和施策を市民の協力と参加のもとに推進する。

(平和事業の推進)

第3条 市は、次に掲げる事業の推進に努めるものとする。

- (1) 平和の意義の普及及び平和意識の高揚
- (2) 平和に関する情報の収集及び提供
- (3) 平和に関する各種行事の開催及び後援
- (4) 平和に関する他の諸都市との交流
- (5) 前各号のほか、平和施策の推進に関し必要な事業

(平和の日)

第4条 4月12日は、西東京市平和の日とする。

2 市は、西東京市平和の日に、平和の意義を確認し、平和意識の高揚を図るため、記念行事を実施する。

(委任)

第5条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、平成13年1月21日から施行する。

非核・平和をすすめる西東京市民の会申し合わせ

1 名称

この会の名称を、「非核・平和をすすめる西東京市民の会」と言います。

2 趣旨

旧田無市は、1984年8月6日、「非核・平和都市宣言」を行いました。

旧保谷市は、1982年10月1日、「憲法擁護・非核都市の宣言」を行いました。

西東京市は、この二つの宣言の趣旨に則り、2002年1月21日「非核・平和都市宣言」を行いました。

この西東京市の宣言の趣旨を、西東京市とともに市民一人ひとりに広め、平和な世界への実現に向け、思想、信条の違いを越えて、世界中の人々と手をつなぎ合い、市民の創意工夫でいろいろな活動を行います。

3 事業、活動の進め方

会の事業、活動は、市民が主体となって、西東京市と提携しながら、市の非核・平和事業予算をもとに進めていきます。

4 世話人

会の趣旨に賛同する市民(在勤、在学者を含む)は、随時世話人となることができます。ただし、個人参加とします。

5 役員

会の代表として、会長1名をおきます。

会長を補佐するために、副会長をおきます。

事業の推進を図るために、事務局長及び若干名の常任世話人をおきます。

常任世話人の中に、広報、庶務などの担当をおくことができます。

6 任期

役員任期は1年とし、再任を妨げないこととします。

7 会議

世話人会は、年2回以上開き、役員を選出し、事業計画、予算計画を決定します。常任世話人会は、事業、活動を推進します。

8 市民集会

全市民を対象にした集会を、年1回以上開きます。

附則 2001年7月7日決定
2003年6月7日一部改正

非核・平和をすすめる西東京市民の会の組織

会 長	山本 恵司		
事務局長	藤川 利子		
常任世話人	小林 悟	鈴木 治夫	穂坂 晴子
	安井 精二	渡部 國夫	山口 あずさ
世 話 人	柏木 由美	久保田 真弘	小林 力
	坂口 光治	笹井 春季	高橋 良彰
	武田 五郎	寺本 匡利	都丸 哲也
	富岡 いづみ	中村 雅実	並木 和子
	益留 俊樹	松村 哲雄	宮崎 進一
	村瀬 敬子	山崎 巖	横山 年三

(五十音順)

世話人になりませんか

「非核・平和をすすめる西東京市民の会」は、平和を愛する市民の集いです。市民が主体となって発想した企画を、行政と一体になって実施しています。

自分自身の発案したプランが事業活動として実現し、平和に貢献することができます。

西東京市の非核・平和都市宣言の「必要なのは笑顔での話し合い、人類愛と思いやり」をモットーに、更に大きく輪を拡げていきたいと思えます。戦争を知らない世代からの斬新でユニークなアイデアも期待しています。ご希望の方は、協働コミュニティ課までお問い合わせください。

2022 年度の活動を振り返って

2022 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響がありながらも、これまでの活動が徐々に再開した一年でした。

4 月の西東京市平和の日は、西東京市戦災パネルや 1 t 爆弾模型などの展示しか行うことができませんでしたが、夏になると、2019 年度以来 4 年ぶりに「広島平和の旅」を実施することができ、秋には「ピースウォーク」として東大和市にある旧日立航空機株式会社変電所を見学できました。

社会全体で、コロナ後を見据えた活動再開の兆しが見えてきており、西東京市の平和事業も、昨年度に比べて前進した一年だったと思います。

一方で、昨年 2 月に始まったロシアのウクライナへの軍事侵攻は終わりが見えず、いまも子どもたちを含む多くの市民が犠牲になっています。かつては、日本でも至るところで空襲により多くの命が失われました。温故知新という言葉がありますが、私たちは歴史から学び、平和を希求する知恵と行動が必要とされています。

田無駅北口には平和のリングが設置されています。多くの方々が何気なく通過していると思いますが、リングの太さは「過去」、「現在」、「未来」の三段階の太さになっていて、過去が一番太く、未来が一番細くなっています。不確定な未来の平和はこころ細いという意味ですが、皆さんとの絆で未来を太く、強くしていきましょう。

さて、西東京市の非核・平和事業も今年で 23 年となりました。田無市、保谷市の時代も入れますと 40 年余り市民参加による自治体の非核・平和事業を続けてきています。下記に追加資料として簡単に振り返っておきますのでご一読ください。

1980 年代、田無市・保谷市の時代に宣言を行い、両市とも市民参加で宣言事業をすすめました。

西東京市になる前、田無市、保谷市が宣言を行ったのは 1980 年代初頭です。この頃、世界に 7 万発もの核兵器が米ソを中心に各地に配備されていまして、世界はまさに一触即発の、人類滅亡の危機の中に追い込まれていきました。「地球の破滅」「核戦争 3 分前」と新聞などに書かれています。

この頃、ヨーロッパでは数十万人規模での核兵器反対の集会が連日開かれました。そのような中から「デモだけでは、核戦争は無くせない」と自治体の連帯を通して核廃絶の運動も提起されていきました。1980 年 11 月にイギリス、マンチェスター市で「核の配備と購入を行わない」という決議を挙げたのです。そしてこの決議は「我々（マンチェスター市）だけでは、ほとんど意味を持たない。イギリスの全自治体が同様に核の配備と購入を行わないと宣言することによっ

て核廃絶は進む」と他の自治体も非核宣言をすることを呼びかけました。この呼びかけに、世界中の自治体が応え「非核・平和宣言」はまたたくまに世界中に広がりました。

日本でも同様に多くの自治体が「非核・平和都市宣言」を行い、自治体を中心にして核廃絶の動きを加速させていきました。

田無市も保谷市も「宣言」を行いました。田無市は1984年8月6日に「非核・平和都市宣言」を、保谷市は1982年10月1日「憲法擁護・非核都市の宣言」を行いました。

宣言当初から、田無市は「非核・平和をすすめる田無市民の会」（会長・寺村輝夫、事務局長・鈴木治夫）が、保谷市は「護憲平和を守る保谷市民の会」（会長・城加秀治）が、それぞれ市民参加での宣言事業を進めていきました。保谷市は、日本非核自治体宣言協議会が結成された当初は協議会の副会長をしていました。

核兵器禁止条約（2020年1月22日発効）

この非核自治体の運動は、世界に広がりました。現在は、非核自治体協議会の動きから、平和首長会議も生まれ、世界の8,240都市が加盟し、日本では西東京市を含め1,737の都市が加盟しています（※2023年3月1日時点）。

そして、世界から核兵器を無くしていこうという初めての国際条約である「核兵器禁止条約」が2021年1月22日50か国の批准に達し発効しました。しかし残念ながら日本は参加していません。

広島に核兵器が落とされてから77年の歳月が流れました。あと少しで1世紀が過ぎていきます。現在もなお世界中には1万3千発も核兵器が配備されており、誰かがボタンを押せば地球は滅びる状況が続いています。

非核・平和都市宣言は、核や戦争を無くすことが目的

「西東京市平和の日」（「西東京市平和推進に関する条例」）、非核・平和事業は市民参加で

西東京市の宣言も他の自治体の宣言と同様「武器をなくすこと、核兵器をなくすこと、地球上から戦争をなくすこと」を目的としています。

いろいろな事業は、この宣言の目的を実現させるための一つの方法です。単にいろいろな事業をすることが目的ではありません。

西東京市の非核・平和事業は、「西東京市平和推進に関する条例」に基づいて進められています。この条例は西東京市の誕生の日、2001年1月21日に条例第2号として定められたものです。

西東京市誕生と共に条例第2号として定められたこの条例は、合併以前の1995年に田無駅の北口再開発により、北口ロータリーに平和のリングの設置、非核・平和都市宣言塔の設置、田無戦災記念碑の設置と併せて「田無市平和推進

に関する条例」と定められたものです。この条例には、4月12日を「田無市平和の日」と定め、その年から毎年、その日は爆撃などで亡くなった多くの方々の慰霊の催しを、被災した田無駅北口の地(アスタビル)にて開催してきています。

この条例の特徴の一つは、「市民の協力と参加」と「市民参加」を明示していることです。田無市、保谷市での方法を西東京市となっても継続して市民参加での事業の進め方をしています。

市民の公募による「宣言文」

西東京市の非核・平和都市宣言の素晴らしい点は、いくつかありますが「宣言文」もその一つです。

田無市と保谷市には、それぞれ非核・平和宣言がされていましたが、合併に伴い宣言は無くなりました。ですからこの会の結成の時にはまだ西東京市としての宣言は行われておりませんでした。西東京市の宣言は市民の手作りで、との願いから、市民参加で作成することとなり、「西東京市平和都市宣言市民委員会」が市民10名で合併した年の8月20日に設置されました。市民委員会で宣言文を市民から公募しますと、わずか一ヶ月の間に58作品が寄せられました。

市民委員会の中で議論して、公募作品の中から2作品を12月7日に市長に報告しました。そして、翌2002年1月21日の市制施行一周年に、市長に報告した作品の中の一つである現在の宣言文が、西東京市の「非核・平和都市宣言」となりました。宣言文の作成過程については、市民委員会からの報告書『「非核・平和都市宣言」に込められた思い』が発行されているので、詳しくはそちらをお読みください。

非核・平和をすすめる西東京市民の会

2022年度 非核・平和をすすめる西東京市民の会 1年間の活動

月 日	内 容	内 容
4月8日～12日	西東京市平和の日事業	田無駅北口アスタセンターコートにて西東京市戦災パネル等を展示（P.9参照）
4月26日	第1回常任世話人会	西東京市平和の日事業まとめ、平和事業についての話し合いについての検討・確認
5月21日	平和事業についての話し合い	「非核・平和をすすめる西東京市民の会申し合わせ」に基づいた、全市民を対象とした市民集会
5月24日	第2回常任世話人会	広島平和の旅、非核・平和パネル展の検討、確認
6月21日	第3回常任世話人会	広島平和の旅、非核・平和パネル展の検討、確認
7月19日	第4回常任世話人会	広島平和の旅事前学習会、非核・平和パネル展、ピースウォークについての検討、確認
7月28日	広島平和の旅事前学習会	広島平和の旅、原爆についての説明
8月5日～6日	広島平和の旅	参加者6名（P.10参照）
8月8日～11日	非核・平和パネル展	田無駅北口アスタセンターコートでパネル等を展示（P.12参照）
8月23日	第5回常任世話人会	非核・平和パネル展、広島平和の旅の報告、ピースウォークの検討、確認
9月20日	第6回常任世話人会	ピースウォーク、非核・平和学習会の検討、確認
10月25日	第7回常任世話人会	ピースウォーク、非核・平和学習会の検討、確認
10月30日	ピースウォーク	旧日立航空機立川工場変電所（東大和市）とその周辺へ訪問（P.13参照）
11月15日	第8回常任世話人会	ピースウォークの報告、非核・平和学習会の検討、確認など
12月10日	非核・平和学習会	大石芳野さん講演会「わたしの心のレンズ～現場の記憶を紡ぐ」（P.21参照）
12月20日	第9回常任世話人会	非核・平和学習会の振り返り、「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争・アニメ原爆の記～」制作の検討、確認
1月21日	世話人会	新年に平和について語り合う
1月24日	第10回常任世話人会	「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争・アニメ原爆の記～」制作の検討、確認
2月21日	第11回常任世話人会	「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争・アニメ原爆の記～」制作、次年度事業の検討、確認
3月14日	第12回常任世話人会	「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争・アニメ原爆の記～」制作、次年度事業の検討、確認
3月25日	試写会	「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争・アニメ原爆の記～」試写会（P.25参照）

西東京市平和の日事業

日にち	4月8日（金）～12日（火）
場所	田無駅北口アスタビル2階センターコート
内容	西東京市戦災パネル・1トン爆弾模型の展示、「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争～」の上映

西東京市は、平成13年1月21日の誕生と同時に「西東京市平和推進に関する条例」を制定し、4月12日を「西東京市平和の日」と定めています。

西東京市周辺では、昭和19年11月から翌年8月までに、十数回に及ぶ空襲の被害を受けました。それは当時、近隣市である武蔵野市に、アメリカ空軍の攻撃目標となった巨大な軍需工場「中島飛行機武蔵製作所」があり、その工場を狙った流れ弾によるものです。なかでも、昭和20年4月12日、アメリカ空軍のB29爆撃機が投下した多数の1トン爆弾によって、西東京市内でも100名以上の犠牲者が出ました。特に被害が大きかった田無駅北口周辺では、50数名の方々が防空壕などで死亡し、多くの家屋が全壊しました。

そこで、戦争の悲劇を忘れないために、西東京市は毎年4月12日を中心に様々な行事を実施し、平和の意義の確認や、平和意識の高揚を図る取組みを行っています。

今年度は昨年度と同様、アスタセンターコートで西東京市戦災パネルや1トン爆弾模型の展示を行ったほか、市ホームページ等により、非核・平和をすすめる西東京市民の会と市長によるメッセージを掲載しました。

「西東京市戦災パネル」等の展示

4月8日（金）～12日（火）

午前10時～午後5時（8日は午後3時から、12日（火）は午後3時まで）



【西東京市戦災パネルの展示】



【1トン爆弾模型の展示】

広島平和の旅

日にち	8月5日（金）～6日（土）
内容	平和記念式典への参列、被爆体験者による講話、平和記念資料館等の 見学
参加者	6人

西東京市では、核兵器の恐ろしさや戦争の愚かさ、そして平和の大切さについて学ぶ機会を市民に提供するため、被爆地である広島へ公募市民の方々を派遣する事業を行っています。

今年度は、小学生の親子2組を含む6名が広島を訪れました。平和記念式典への参列をはじめ、原爆ドームや平和記念資料館の見学、被爆体験者の講話などをおして、原爆や戦争がもたらす悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについての理解を深め、この時期に広島を訪れることの意味を改めて考えるなど、多くの体験を持ち帰りました。

【見学先等】

- 8月5日（金）
 - ・ 原爆ドーム
 - ・ 爆心地
 - ・ 原爆の子の像
 - ・ 平和記念資料館
 - ・ 被爆体験者による講話
- 8月6日（土）
 - ・ 平和記念式典参列・献花
 - ・ 平和記念公園の見学



【平和記念資料館】



【「広島平和の旅」参加者の皆様】

【参加者の感想】

- 核を保有する国がある限り、使われる可能性はゼロではなく、未来ある子供達に二度と同じ思いをさせないために、自分に何ができるのか、平和とは何なのかと改めて考える機会となりました。

- 焼け焦げた三輪車や服、お弁当箱のとなりにあった解説の文を読んで家族の遺体や行方不明で家族にも会えない遺族の人が可哀想だと思いました。自分の家族が、生きているかもわからず生活をするのもとても辛い事だとも思いました。

- 悲しい歴史の上に、今の平和がある広島。街中で“日常”を目にし、平和を実感するからこそ感じられる原爆のむごさ…。怖さを感じさせるだけではなく、悲しい歴史を伝えつつ、“日常”が尊いものだと感じるようにしていく事こそが、平和を守りたい思いに繋がっていくのではないかと…。そう思いを改めました。

- ウクライナの人たちはもしかしたら昔の広島みたいになってしまうかもしれない状況でくらしているんだと思ったら、「一番ほしい物」が変わった。「やっぱり平和がほしい」と思った。私だったら、お父さんが兵士になるのはいやだし、親とはなれて一生会えないのもいやだ。何よりも平和が一番。というのは分かっていたけど、広島に行って、いかに平和が大切かよく分かった。

- 無念のうちに生命を落とされた多くの皆様の悲しみを忘れません。平和記念公園がずっと戦争がもたらす苦しみ悲しみ等を静かに気づかせてくれる場所でありますよう心から願っています。

- 原爆資料館の中は若い学生さんでにぎわっていた。真剣なまなざしで見学していた彼らを見て自分も同じ空間で平和の意識を共有できていると感じられて嬉しかった。若者たちこそ宝である。争いがおこるとまず初めに弱いもの若者の命が失われる、墓地に祭られても報われることはない。平和のために英知を集めてほしい。若い人に期待している。私も考えて行くから。

※ 「広島平和の旅」事業の詳細については、「令和4年度（2022年度）広島平和の旅報告集」をご覧ください。

非核・平和パネル展

- 日時** 8月8日（月）～11日（木・祝）午前10時～午後5時
（8日は午後3時から、11日は午後3時まで）
- 場所** 田無駅北口アスタビル2階センターコート
- 内容** 西東京市戦災パネル、1トン爆弾模型、ヒロシマ・ナガサキ被爆の実相等に関するポスター、平和と学びポスターセット、原爆模擬爆弾の資料等の展示

西東京市では、これまでの戦争の悲惨な歴史を忘れず、平和を未来へ継承していくために、毎年夏に「非核・平和パネル展」を開催しています。

この「非核・平和パネル展」では、市内周辺で起きた空襲の被害や当時の暮らしの様子を紹介する西東京市戦災パネルや1トン爆弾模型、ヒロシマ・ナガサキ被爆の実相等に関するポスターを展示するほか、8月5日から6日にかけて行われた広島平和の旅の様子をパネルで報告しました。

展示期間中は、アスタビルで買い物をしている方や学生の方、夏休み中の親子のほか、戦争体験者の方にもご覧いただきました。

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続くなか、戦争や平和について、自分事として捉えていただくきっかけとなる展示となりました。



【会場の様子】



【1トン爆弾模型の展示の様子】

ピースウォーク

日にち 10月30日(土)
内容 旧日立航空機株式会社変電所、米軍大和基地跡地の碑等の見学
参加者 14人

ピースウォークは、戦争に関連した施設を見学することで、平和の大切さを考える機会としていただくために開催しています。

今年度は、三度の空襲で工場が壊滅し奇跡的に残った東大和市の旧日立航空機株式会社(戦災変電所)とその周辺を見学しました。

旧日立航空機株式会社立川工場変電所(東大和市指定文化財)の見学 旧日立航空機株式会社立川工場変電所とは



昭和10年代、海外へのさらなる進出を目論む日本は軍備の拡大を目指していました。明治時代に創業した「東京瓦斯電気株式会社」(通称「ガスデン」以下「ガスデン」と表記)は、もともとガス器具や電気器具をつくる会社でしたが、戦闘機や軍用トラック、兵器をつくる大企業へと発展していきました。

ガスデン大森工場では操業拡大のために広大な工場用地を求めており、当時の大和村(現東大和市)南部の無人の土地がその候補地となりました。大和村もいわゆる「昭和恐慌」で疲弊しており、新たな産業の移入への期待がありました。ガス

デンは1950年(昭和25年)までに97万㎡に及ぶ工場を完成させることを計画し、隣接して社宅の建設も行われました。

1938年(昭和13年)、工場の建設を行いながら徐々に操業を始めたガスデン立川工場は、大森工場の発動機(エンジン)の生産を担う工場となり、「立川発動機製作所」とも呼ばれていました。

ガスデンは翌1939年(昭和14年)に国策によって日立製作所に吸収され、また、製造品目ごとに分社化されて、航空機部門は「日立航空機株式会社」となりました。現在、市の文化財に指定され、都立東大和南公園となった一角に保存されている変電所は、33,000ボルトの高圧電流を機械稼働用の3,300ボルトと、

照明等低圧用の110ボルトに変電して、配電するための重要な施設でした。

太平洋戦争の敗色が色濃くなった1944年（昭和19年）秋から関東地方へのアメリカ軍の爆撃がはじまり、この工場へも翌年の2月と4月に犠牲者を出す空襲がありました。その犠牲者数は合計で111人といわれ、徴用されていた学生や軍務監督官の兵士、社宅で死亡した子どもも含まれ、資料の分析によってはさらに増える可能性もあります。

1945年（昭和20年）2月17日（土）の艦載機グラマン約50機による空襲では、78人の犠牲者を出しました。わずか7分間といわれる空襲で、多くの犠牲者を出したのは、操業に支障があるとして工場外への避難を禁止したこと、小型の戦闘機が一人ひとりをねらって銃撃するという残酷な状況があったためです。

4月19日（木）の「通り魔的」空襲では、5人の犠牲者を出しました。

4月24日（火）のB29爆撃機約100機の空襲では、28人の犠牲者を出し、工場は8割方壊滅する状況となりました。

変電所は、間口約18m、奥行き約9m、高さ約9mの鉄筋コンクリート2階建てで、特に南面に夥しい機銃掃射の痕があります。これは、アメリカ軍機がどの方向から飛来し、爆撃したのかを示すものとなっています。

戦後、広大な工場用地の一角で「平和産業に限り操業を許可する」としたGHQの命令により、1946年（昭和21年）には鍋や自転車用空気入れなどを生産する工場が誕生します。その後、短期間で経営母体が変わりましたが、鉄筋コンクリートで覆われた変電所は工場に電気を送り続け、1993年（平成5年）まで稼働しました。ただし、戦争の傷跡を残す外壁などは修理されないままでした。今でこそ工場用地を買収してつくられた都立公園内にポツンと建つ変電所ですが、操業当時はさまざまな建物に囲まれた中にあり、その存在を知る人は工場関係者に限られていました。

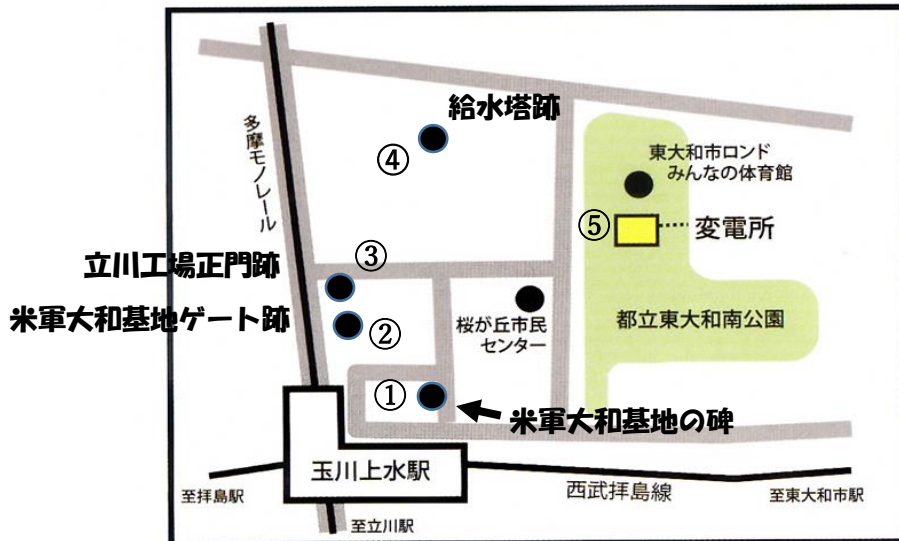
1981年（昭和56年）に公民館で開設された郷土史講座でこの変電所を知る市民が生まれ、その後の工場移転、都立公園化による建物取り壊しの危機に対して保存する会を結成して、市議会や都議会を動かす運動へと発展していきました。



見学の様子 【東大和市指定史跡「旧日立航空機立川工場変電所」施設内】

歩いたコースと、見学した周辺の地図（下）①～⑤

西武拝島線・多摩モノレール「玉川上水」駅から徒歩5分
都立東大和南公園内



（1）米軍大和基地跡地の碑

西東京市に近い戦争遺跡・基地の街だった東大和市

当日は集合の時から東大和市の元職員であった後藤祥夫さんに、今回のピースウォークの前半、旧日立航空機株式会社立川工場変電所までを案内していただきました。まず玉川上水駅北口ロータリーの中央にある広場に集まり、あいさつの後、北東部にある米軍大和基地の石碑の前に移動しました。この石碑は1956年（昭和31年）に旧日立航空機株式会社立川工場の跡地（すでに操業していた工場や変電所は除く）につくられたアメリカ軍大和基地（アメリカ軍立川基地の兵士3千人分の宿舎、スポーツ施設、ハイスクールなど）のゲート前に設置されたものです。



①米軍大和基地跡の碑の前で

1950年（昭和25年）に勃発した朝鮮戦争で、多摩地域はその主要な軍事基地となりました。戦闘に関わる飛行機がプロペラ機からジェット機に代わり、アメリカ軍立川基地の滑走路の延長が必要となったことから強制的に土地収用を行おうとして農民と対立したいわゆる「砂川闘争」と連動して、増強兵士の宿舎が必要となり、軍需工場跡地をこれに充てようとしたものです。もちろん地元こそ

の了解を得ることはなく、日米両政府間で一方的に決めたものであるため、村民集会など反対運動が行われましたが、聞き入れられませんでした。

1973年（昭和48年）の日米政府間のいわゆる「関東計画」により、大和基地は1977年（昭和52年）に日本に返還されましたが、東大和市には返還されず、広大な土地を国と東京都が分有する結果となりました。東大和市は市民が憩える公園や住居施設、学校の建設を東京都に要請するにとどまりました。この「米軍大和基地の碑」は、こうした市の歴史を象徴するものとして保存されています。



大和空軍基地
昭和三十一年二月二十四日正式開設
我々は世界の平和が総べての自由愛好国家の間に於ける親睦友好関係に対する努力を通して得られることを心に銘記して居ります。日本とアメリカ合衆国両国民の間に育てられた堅い絆は平和のための永久の防波堤となるであります。
我々は大和空軍基地将兵が当基地と大和町民とによって現在享有されている尊敬と友情を更に助長するようあらゆる面に於て身を処して行くことを願うものであります。

（2）旧日立航空機株式会社の工場正門跡地

西側の芋窪街道沿側からモノレールを上に見て、芋窪街道の東側の歩道を、北に向かって歩きました。初めが大和空軍基地の入口②があったところですがその跡形もありません。次に旧日立航空機株式会社の工場正門後③がありました。ここは不思議な河童の頭のような感じのものが1つ造られて立っていました。ここから東側（③写真の奥の左右）が会社の工場分になっていましたが、今は大きな団地群になっています。ここで後藤祥夫さんが当時の正門辺りの爆撃の跡の写真を出して当時の様子を説明してくれました。2つのコンクリートの頑丈な壁だけが相對して残っているところは、本館の事務所（下図の○の部分）があったそうですが、北側からのアメリカ軍の爆弾により、2枚の丈夫な防火壁だけがかろうじて残りました。次頁の写真の奥の給水塔④から撮った写真からその被害の様子が見えます。このうえには高射砲が設置され、B29の攻撃を迎撃していたとのこと。



②米軍大和基地ゲート跡



③日立航空機株式会社の工場正門跡



旧日立航空機株式会社（薄い線の場所は当時建設中または未建設の部分）

給水塔から南方を撮影 本館の事務所の2つの残った防火壁が見える



給水塔

**(3) 3回の空襲をうけた110余名の死者と多くの負傷者
工場の8割が破壊される**

- 1回目 昭和20年2月17日 グラマンF6F戦闘機などの50機編隊の銃・爆撃（北からの来襲 航空母艦より）
- 2回目 4月19日のP-51 ムスタング戦闘機5機の機銃掃射

3回目 4月24日のB-29、101機編隊による1,800あまりの爆撃の投下(500ポンド爆弾)



この変電所は、戦後も殆ど修理の手を加えないまま平成5年(1993年)まで工場に電気を送り続けていました。また給水塔も戦後もずっと、工場移転により操縦を停止するまで、工場に水を送り続けていました。この給水塔は歴史的価値が高かったのですが老朽化・維持管理の問題などから平成13年(2001年)取り壊されました。その時に爆弾の痕跡を顕著に残す部分を切り取り、変電所の場所に保存することにしました。

変電所と給水塔は銃撃されましたが、爆撃はされなかったために大破せずに戦後も働き続けてきたという事です。この銃撃の痕跡はおびただしく、しかも戦後もそのまま使われ続けていたので、平和のための市民の保存運動が起きました。その結果東大和市指定文化財(史跡)として都立東大和南公園内に保存されています。更に東に進むと、道路を渡って、都立東大和南公園の西の入り口に着きました。左側奥に変電所が見えます。

(4) 変電所内部の見学

着いてすぐに戦災当時の市民の体験を語るビデオが上映されました。

ここの工場の爆撃や、グラマンによる機銃掃射だけでなく、工場の外の町民(その当時は東大和町)も畑などで機銃掃射で殺されかけたりされたとのことでした。

工場で働いていた方々の生々しい証言は、その当時の恐ろしさを知る貴重な歴史の断片で、西東京市でもできるだけ早く、このような証言のビデオがまとめられるといいと思いました。その後2つの班に別れ、2人の解説員の方に引率されながら、1・2階の展示や、まだ残っている機銃掃射の跡な



どを見学しました。

コンクリートの壁で印象に残っている箇所を一つ上げると、右の変電所の機銃掃射された箇所の事です。上の壁の被弾個所と下の壁の被弾個所では、大きな違いがあります。Bは穴が開き光が射しています。Aはなぜ穴が開かなかったのか。それは解説員の方と外へ出て、この個所を表から見ると原因が分かりました。Aの穴の場所には鉄筋があって、そこに弾が当たったのではじかれて貫通しなかったのです。

ちょっとした差で生死が決まるような違いがここでは行われていたという感じがしました。

2階には生き残った大型の配電装置が大きく場所を取り、でんと当時のままに残っていました。この装置も敗戦後も現役で使われていましたが、古い装置には当時の機銃照射の跡がいくつか残っていました。職員は窓と窓の間のコンクリートに隠れて、打たれるのを防いでいたという事で、この建物は爆撃されなかったが、エンジン生産のために必死の仕事だったと思います。



一通りの見学を終えた後、ビデオを見た場所に戻って、参加した皆さんからの質問を係の人に受けていただきました。

その中で印象に残った事は、第1回目の空襲では、敵の攻撃があっても工場外への退避が認められず、このためにここでは多くの犠牲者が出ました。この事実は、武蔵野市の中島飛行機の工場でも全く同じことで、第2回目では、工場からの退避が行われるようになったという事です。防空壕への退避ですが、防空壕は、土を掘っただけのもので、多くの人が爆撃の際に土に埋まって窒息死してしま

いました。穴の中に入る防空壕は役に立たなかったのです。それは昭和 20 年 4 月 12 日の田無駅への 1 トン爆弾の被害では、大春組のコンクリートの防空壕で、爆撃で埋まって多くの人々が亡くなった事実と全く同じようです。人々には穴を掘って防空壕に入るように国が命令していたのです。このため多くの人々が土に埋まって亡くなったのです。職場では、空襲が終わったらすぐに持ち場に戻り生産をするという事が、命令されました。外に出ればグラマンの機銃掃射があったそうで、アメリカ人の操縦士が見えたそうです。東大和ではこの機銃掃射の恐怖があったのです。〈写真資料については、変電所内外の掲示資料などから〉

《文 冒頭「旧日立航空機株式会社立川工場変電所とは」東大和市元職員 後藤 祥夫氏》《文（1）～（3）非核・平和を進める西東京市民の会 渡部 國夫氏》

【参加者の感想】

- 生々しさに驚きました。ウクライナの現在なのだろうと思います。多摩地域の連携に賛成です。
- 東大和市の方々に残していただいて、大変すばらしい事だと思います。
- 戦争なので当たり前かもしれませんが、あらためて非人道的なことが行われていたことがよくわかりました。
- お話がそれぞれ興味深く今の平和のありがたさを思いました。11 歳の子には戦後の話が難しかったようで「分からないつまらない」と連発していましたが…貫通した弾とそうでないのがあったかなど具体的に考えるようになってから少し理解できるようになったようです。戦争がどんどん遠くなる中、隣に戦後があることを感じて欲しくて連れて行きました。参加させていただき、ありがとうございました。

非核・平和学習会

日 時	12月10日（土）午後1時～午後4時30分
場 所	コール田無3階 イベントルーム
内 容	講演会「わたしの心のレンズ～現場の記憶を紡ぐ～」
講 師	大石 芳野 さん（写真家）
参加者	38人

「非核・平和学習会」では毎年、非核・平和に関して講師を招き、講演会を実施しています。

今年度は、戦争、内乱後の市民に目を向けたドキュメンタリー作品を多く手掛けている写真家の大石芳野さんを講師に迎え、「どのように戦争体験や教訓を未来に紡ぐことができるか」を取材した実体験をもとに、「私たち一人ひとりは何をすれば良いのか」についてご講演いただきました。

リアル感が伝わった、戦争をどう語り繋ぐことができるかなど多くの方から感想が寄せられました。



【大石芳野さん プロフィール】

《写真家》

- ・ 日本大学学部写真科卒業
- ・ 元東京工芸大学芸術学部教授

《活 動》

戦争、内乱後の市民に目を向けたドキュメンタリー作品を多く手掛け、ベトナム戦争、カンボジアの虐殺、スーダンのダルフルの難民、広島、長崎の被爆者やニューギニアなど世界各地の人々への取材を続ける。

《著 書》

- ・ 『小さな草に』（朝日新聞社）
- ・ 『沖縄若夏の記憶』（岩波書店）
- ・ 『わたしの心のレンズ』（集英社インターナショナル）
- ・ 『「夜と霧」をこえてポーランド強制収容所の生還者たち』（日本放送出版協会）

《写 真 集》

- ・ 『長崎の痕』（藤原書店）
- ・ 『戦争は終わっても終わらない』（藤原書店）
- ・ 『戦禍の記憶』（クレヴィス）
- ・ 『〈不発弾〉と生きる 祈りを織るラオス』（藤原書店）
- ・ 『夜と霧は今』（用美社）
- ・ 『福島 土と生きる』（藤原書店）など

講演の要旨

約半世紀にわたる、戦争の悲劇に襲われた世界各地の取材、撮影を続けられた大石さんの経験をもとに、コロナ禍によって取材がままならない中それらの場面、状況を振り返り、現場の記憶を紡ぎながら、臨場感のあるお話をいただきました。

また、昨年のロシア連邦によるウクライナへの軍事侵攻、コロナ禍の日本の状況等、人々の生活が大きく変わる中、人間のあり方について、また「戦争」「差別」を引き起こすものは何かについて学び、次世代につなぐ共生・共存への道を考える講座となりました。

①【アフガニスタンの少年】

2001年9月にニューヨークのツインタワーが、ウサマビンラディンにより破壊されました。米国はビンラディンが潜伏しているアフガニスタンを攻撃し当時のタリバン政権を崩壊させました。

大石さんは、翌年の1月崩壊されていた首都カブールに入りました。そこでは、水汲みをしている少女達や、父親を戦争で亡くした9歳のオミット君に出会いま

した。この国で親を亡くしたら、男児なら親戚に引き取られるか浮浪児に、女児は売られるしかありません。オミット君は、母親はいましたが家は貧しく学校に行ける余裕はありませんでした。学校で使う学用品も服を買うお金もないのです。そこで大石さんは、オミット君兄弟が学校に行けるようになりました。

世界にはカブールだけではなく、今もこのような子どもたちは少なくないと思います。凶弾に倒れた医師中村哲さんもこの地で活躍されていました。



②【南スーダン・ダルフル難民】

南スーダンは、長い戦争を経てスーダンから独立しました。この写真の男児は、靴磨きをしている浮浪児で、取り締まっている男性の元で暮らしている何人かの浮浪児の一人です。親や政府から何の保護も今後も期待できず、彼らはどのように生きていけばよいので

しょうか。映像の写真は、スーダン領内のダルフル隣国のチャドへの難民申請中の女性たちで、少しホッとしている様子がうかがえます。このダルフルこの国境まで何か月もかけてたどり着いたそうです。



③【アウシュビッツ(ポーランド)】

大石さんは、スクリーンの上の写真を指し「これは死の門の写真です。」と語ります。

ここの奥に多くのユダヤ人たちが送られたガス室があります。写真の男性ですが、ここで生き延びることができたユダヤの方でこの方になぜ生き延びることができたのですかと尋ねると「自分の血管の中に希望というものを

流して、誰かの助けを頼るのではなく、自分で自分の希望にすがって自分を強くして生きのびたのだ。」と言っていたそうです。

現在、ポーランドにはユダヤ人は少ないのです。それは1968年ユダヤ人追放運動もあり、多くのユダヤ人は、ポーランドから去りました。しかし、お会いした少数のユダヤ人たちは、ポーランドは自分の故郷だからどこにも行かないと言っていたそうです。

④【カンボジアの子どもの瞳の奥には】

カンボジアはベトナム戦争が終わり1976年4月から1979年1月までの約4年間ポルポトが、政権を掌握しました。大石さんは、ポルポト政権崩壊後、現地取材に入りました。現在ではどのような政治が行われたか、詳しく判っていますが、大石さんらがこの政権の非人道的行為を写真などで報道しても、当時は信用してもらえず、捏造だと批判を受けました。しかし、それにも諦めずに続けたとのこと。100万とも200万ともいわれる人々がこの4年間に殺されていきました。取材時、子どもたちは実年齢より小さく、大人は年齢より老けこんでみえました。



写真から見える子どもたちの表情は、子どもらしい生き生きしたものではなく

暗く、特に非主流派の子どもたちの生活は、どんなにつらかったか想像されます。感情さえ自由に表現できない過酷な状況に置かれたら誰もがこのようになるのではないかと思います。

《記録文作成協力 非核・平和をすすめる西東京市民の会 久保田真弘・穂坂晴子》

講演を終えて

静かにゆっくり語りかける大石さんの話と画面に映し出される枯葉剤、破壊、映し出された人たちの鋭い瞳の奥の語りつくせない悲しみが大石さんの語りとともに共鳴し伝わってきました。

長きにわたり、レンズを向けることで、平和の尊さを問い続け、子ども達の悲しさや辛さ、悔しさを全身で受け止めてきた大石さんは、昨年のロシア連邦によるウクライナへの軍事侵攻・・・「戦争で傷ついた人々に自分を重ね、想像し、繋がるのが大事」「みんな昔は子どもだった」と語ります。

今、一人ひとりが「人を傷つけることなく」今できることとは何か、自分に問うことから始めようと思いました。

【参加者の感想】

- 写真を見せていただき、具体的で、リアル感が伝わってきました。
- 日本・世界の問題は全て自分に向いてくる。「知ったことを伝えていくことの大切さ」という言葉が心に残りました。
- 大石さんは単に戦禍を撮るのではなく、その中にも希望、生きることの大切さを伝えているように感じました。感謝、今後もこういう方の話を聞きたい。
- 次世代を担う若者にきちんと歴史を継承していくことが大切。西東京で80年前に何があったか、生の証言は聞けずとも、大人が伝えることを学校や地域で定着させていきたい。
- 誠実なお人柄が伝わるお話でした。同時代を生きるものとして何をすることができるか考え、できることをしていきたいと思います。

「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争・

アニメ原爆の記～」制作 試写会

日時 3月25日（土）午後7時～午後8時
場所 田無公民館視聴覚室
内容 「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争・アニメ原爆の記～」試写会

市は、戦後70年の節目の年にあたる2017年、戦争の記憶を風化させないために、戦時中にあった市内の出来事や今も残る市内の戦跡、体験談などをまとめた映像作品「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争～」を市民の方々の協働で制作しました。

今年度は、この映像作品に旧田無市の初代市長である指田吾一氏が著した『原爆の記』の一部をアニメーション化するほか、市内の戦争遺跡の紹介を追加して挿入するなどのリニューアルを行いました。

試写会では、『原爆の記』のアニメーション化を手掛けた外村史郎監督をお招きし、制作にあたっての思いなどをお話いただきました。



【主催者挨拶】



【外村監督挨拶】

常設展示

西東京市で作成した「西東京市戦災パネル」や戦時中に市内に投下された1トン爆弾模型等を西東京市の郷土資料室において不定期で展示しているほか、戦争遺品等を田無庁舎2階ロビーで展示しています。

①「西東京市戦災パネル」、1トン爆弾模型等の展示 ②戦争遺品等の展示

場 所 ① 郷土資料室

② 西東京市役所（田無庁舎）2階 展示スペース

日 時 ① 不定期 午前10時～午後5時

② 常時 午前8時30分～午後5時

内 容 ① 西東京市戦災パネル、1トン爆弾模型等

② 戦争遺品等



【郷土資料室での展示の様子】



【西東京市役所（田無庁舎）での展示の様子】

夏休み平和映画会 上映作品一覧

年 度	作品名	監督名
平成 13 年	対馬丸ーさようなら沖縄ー	小林 治
平成 14 年	ホテル	降旗 康男
平成 15 年	月光の夏	神山 征二郎
平成 16 年	戦場のピアニスト	ロマン・ポランスキー
平成 17 年	コルチャック先生	アンジェイ・ワイダ
平成 18 年	あした天気にな〜れ！〜半分のさつまいも〜	中田 新一
平成 19 年	NAGASAKI1945 アンゼラスの鐘	有原 誠治
平成 20 年	夕凧の街 桜の国	佐々部 清
平成 21 年	火垂るの墓	日向寺 太郎
平成 22 年	母べえ	山田 洋次
平成 23 年	TOMORROW 明日	黒木 和雄
平成 24 年	独裁者 The Great Dictator	チャールズ・チャップリン
平成 25 年	黒い雨	今村 昌平
平成 26 年	一枚のハガキ	新藤 兼人
平成 27 年	この子を残して	木下 恵介
平成 28 年	母と暮らせば	山田 洋次
平成 29 年	この世界の片隅に	片渕 須直
平成 30 年	この空の花ー長岡花火物語	大林 宣彦
令和元年	男たちの大和/YAMATO	佐藤 純彌

これまでに発行された戦争体験記一覧（1）

発行年	書名	発行者等
昭和44年	原爆の記	指田 吾一
昭和47年	保谷の被爆記	郷土史「保谷」発行会
昭和52年	戦争 生き抜いた私たち —寿講座生の手記—	田無市立中央公民館
昭和54年	歴史はとまってしまった —原爆投下の地、広島・長崎からの告発—	自治労田無市職員組合
昭和54年	中島飛行機製作所と田無 —中島航空金属株式会社と田無—	田無市立中央図書館
昭和54年	町を護る—空襲下の田無—	田無市立中央図書館
昭和55年	戦争を伝える 第1集～第18集	田無市立中央公民館 田無市立中央図書館
昭和55年	中島飛行機と田無—戦争を伝える・座談会の記録—	田無市立中央図書館
昭和57年	田無の戦災誌	田無市立中央図書館
昭和57年	五色の日記	小峰順誉（田無総持寺）
昭和57年	仲間につたえる戦争の体験記 —二度と戦争を許さないために—	田無市職員組合
昭和60年	戦時下の絵日記 —ある美術教師の青春—	佐藤多持
昭和63年	被爆者のお話と映画の集い	核戦争の恐ろしさを子どもらに伝える会
平成2年	私達の街にも、戦争があった	田無第一中学校地歴部
平成2年	なつくさ	保谷市戦争体験をつづる会
平成4年	21世紀への伝言 —私の戦争体験記—	保谷市

※ ここに掲載されている本・冊子は、市内図書館等で閲覧することができます。

これまでに発行された戦争体験記一覧（2）

発行年	書名	発行者等
平成5年	21世紀への伝言—君のまちにも戦争があった—	保谷市
平成6年	田無 非核・平和運動資料集—田無 非核・平和都市宣言十周年記念— 上・下巻	非核・平和をすすめる田無市民の会、田無市
平成6年	戦争体験記	ほうや公民館だより
平成6年	散華乙女の碑	武蔵野女子学院
平成6年	八つ手の盆—田無の戦争体験を語る—	平和観音保存会
平成7年	21世紀への伝言	平和を見つめる田無のつどい実行委員会
平成15年	「平和を考える講座～その時、西東京市では・中島飛行機とのかかわりから考える～」記録集	西東京市芝久保公民館
平成15年	だれが戦争をはじめたの？—小学生からの質問 平和が一番—	村瀬敬子
平成21年	五歳の戦争	横山さよ子
平成21年	西東京市 市民の戦争体験記(一)	非核・平和をすすめる西東京市民の会、西東京市
平成22年	戦中日誌類からみた戦時下の武蔵野女子学院	武蔵野女子学院
平成22年	西東京市 市民の戦争体験記(二)	非核・平和をすすめる西東京市民の会、西東京市
平成23年	西東京市 市民の戦争体験記(三)	非核・平和をすすめる西東京市民の会、西東京市

※ ここに掲載されている本・冊子は、市内図書館等で閲覧することができます。

令和 4 年度 西東京市平和事業関係予算

事業名	予算額
西東京市平和の日事業費 講演会講師謝金 35,000 円	35,000 円
広島平和記念式典市民参加事業費 引率職員旅費等 113,000 円 広島平和記念式典市民参加事業委託料 409,000 円	522,000 円
平和啓発映像制作事業費 平和啓発映像制作委託料 440,000 円	440,000 円
非核・平和学習会事業費 講演会講師謝金 50,000 円	50,000 円
その他の平和事業関係費 旅費 2,000 円 需用費 204,000 円 役務費 12,000 円 入場料 8,000 円 日本非核宣言自治体協議会分担金 30,000 円	256,000 円
合 計	1,303,000 円

非核・平和はみんなの願い

令和5年3月

編集 非核・平和をすすめる西東京市民の会

発行 西東京市 生活文化スポーツ部 協働コミュニティ課
〒188-8666 西東京市南町五丁目6番13号 田無第二庁舎
電話：042-420-2821（直通）
FAX：042-420-2893（共用）
E-mail：kyoudou@city.nishitokyo.lg.jp